

インテリアイメージに関する一考察

— インテリアイメージの現状と認識 —

A Study on Interior Image

— The Present Situation and Recognition of Interior Image —

中 西 眞 弓

キーワード：インテリアイメージ インテリアスタイル 効果 イメージ認識 事例研究

実際のインテリアコーディネートにおいて、どのようなインテリアイメージやインテリアスタイルを希望するのかは非常に重要なことと考えられている。しかしながら、インテリアイメージやインテリアスタイルは多様な分類基準によって用いられているのが現状であり、またそれに対して混乱を招いているという指摘もある。このような中、インテリアイメージがどの程度認識されており、それを用いることでどのような効果があるのかを調べた。学生たちは、インテリアイメージとして用いられている9つのイメージに対し、それなりに理解をしたつもりでいるが、それらは自分と他者で一致しているとは言い難い状況であること、しかしながら、言葉だけでなく、写真や実例とともに示すことで、大きな混乱なく第三者に伝えることができることが分かった。またインテリアのイメージを分類するためには、配色だけで分類することに無理があることも分かった。世代間や男女の相違については、今回の調査対象においてはあまり違いがみられなかったが、「シック」と「モダン」についての認識には違いがみられること、そしてそれが、特定の要素の含まれるときに顕著になるらしいことが分かった。

1. はじめに

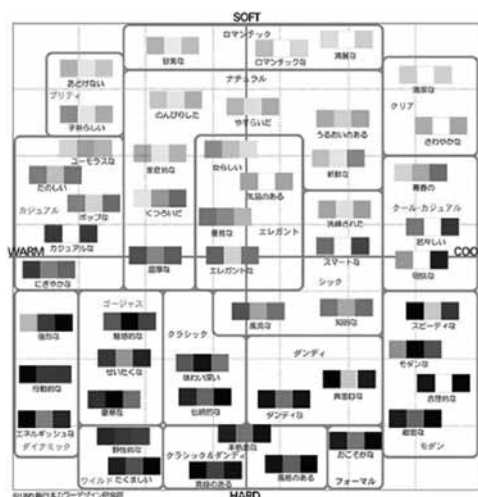
インテリアコーディネートの基本として、どのような生活を望んでいるのか、どんなライフスタイルの居住者なのかは最も大切である。しかし、現実的なコーディネートを考える上ではどんなインテリアイメージにするのかもまた非常に重要になる。ライフスタイルとインテリアイメージは必ずしも単一の結びつきをするものではなく、それぞれ独立して把握されなければならない重要なポイントであると思われるが、ライフスタイルがそのままインテリアスタイルと一致するという見方もある。

このインテリアイメージやインテリアスタイルと呼ばれるものの中には、色彩を中心に分類されたものが多い。代表的なものの一つは図1に示す日本カラーデザイン研究所が示した配色イメージスケールである。¹⁾ これは、イメージの判断基準である WARM - COOL、SOFT - HARD の座標

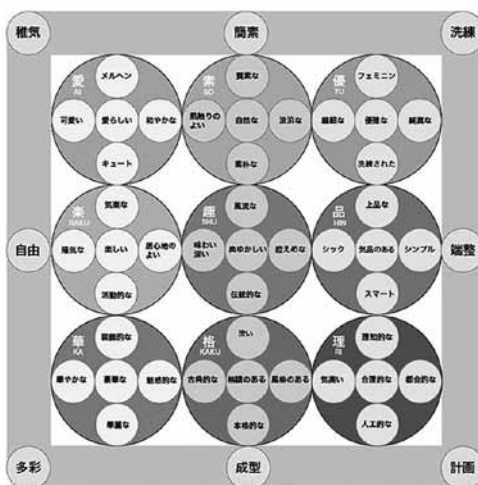
軸上に130色の単色をプロットした基本のカラーイメージスケールをもとに、イメージごとにグルーピングを行い、単色よりも複雑で繊細なイメージの違いを表現したものである。「プリティ」「カジュアル」「ダイナミック」「ロマンチック」「ナチュラル」「エレガント」「シック」「ゴージャス」「ワイルド」「ダンディ」「クラシック&ダンディ」「ダンディ」「フォーマル」「クリア」「クールカジュアル」「モダン」の16種類のイメージに分類されるものである。

また A.F.T 色彩検定2級のテキスト²⁾ にはインテリアスタイルとして「ナチュラル」「カジュアル」「クラシック」「エレガント」「モダン」「オーソドックス」の6種類が分類され、それぞれの色の特徴とともに示されている³⁾。更に、本学学生がインテリアデザインの実習で使用している PC ソフト「3D マイホームデザイナーPRO7」のテキストとして使用している「インテリアコーディネートトレーニングブック」⁴⁾ には、静岡文化芸術大学宮内博実教授及び札幌市立大学大淵一博講師によって共同開発された「9 イメージ分類調査法＝WAT9」⁵⁾ によると明記されたうえで、「キュート」(愛)「ナチュラル」(素)「エレガント」(優)「カジュアル」(楽)「和風」(趣)「シック」(品)「アジアン」(華)「クラシック」(格)「モダン」(理)の9つの分類が用いられている。これらはいずれも色彩を中心に、言葉やライフスタイルを当てはめてイメージ分類を行っているところに共通点が見られる。

一方、インテリアコーディネーターの資格試験を実施しているインテリア産業協会は、インテリアを分類する言葉はたくさんあるが、代表的なインテリアスタイルは、「クラシック」「エレガント」「モダン」「カジュアル」の4つであるとしている⁶⁾。インテリア関係であれば、それほどシンプルにまとまっているのかといえは百人百様の分類を示しており、住宅用語辞典⁷⁾ にはインテリアスタイルとして、「クラシック」「ブリティッシュ」「アーリーアメリカン」「カントリー」「ブリティッシュカントリー」「フレンチカントリー」「シンプルモダン」「イタリアモダン」「プロバンス」「アジアン」「アンティーク」といった13種類をインテリアスタイルの項目として挙げている。また建築関係者やリフォーム業者、建築家に至るまで、それぞれの分類基準を示しているのが現状といえる。そして、それぞれの都合に合わせて、そのスタイルの分類の仕方も異なっているようである。ある建



9-イメージ分類45言語/2009 Ver.02



静岡文化芸術大学宮内博実研究室

築士⁸⁾の分類では、「シンプル」「ナチュラル」「モダン」「シンプルモダン」「クラシック」「現代和風」「伝統的和風」「民家風和風」「ヨーロッパ」「カントリー」「アジア」というように、和風がとて詳しく分類されているし、ある家具の通販サイト⁹⁾では、「スタイリッシュモダン」「ミッドセンチュリーモダン」「スカンジナビアモダン」の3種類が提示され、すべてモダンスタイルとなっていたりする。

このような中、椋山女学園大学の雨宮勇氏は、個人によって想起するインテリアイメージが統一されておらず、誤解によるトラブルが多かったことを指摘し、客観的なスケールが必要であると提案し、新たなイメージマップ作りやそのスケールの軸を模索している。「インテリアイメージマップ制作のための調査研究 (1)¹⁰⁾」では、イメージマップの軸として「自然⇄都会」「装飾⇄シンプル」の2対の形容詞対で構成したイメージマップを提案し、「インテリアイメージマップ制作のための調査研究 (2)¹¹⁾」及び「インテリアイメージマップ制作のための調査研究 (3)¹²⁾」において、客観性を増すための追加調査分析を行ってきている。またこの間、女子大生へのアンケート調査であったが、「インテリアイメージの世代間の相違¹³⁾」では、20代30代を中心とした社会人を対象としての調査により、世代間の違いがあることを結論付けている。世代間の相違については、これまで高齢者の色彩イメージを中心とした世代間の相違を論じることが多かった¹⁴⁾が、20代前半、20代後半、30代前半程度の差でも、イメージのとらえ方に大きな違いがあるということは興味深い。

しかしながら、これまでの研究において、世代間にどのような違いがあるのか、またどのようなイメージが客観的なものなのかについて明らかになったとは言い切れない。世代間にも違いがあるということだが、どのような違いがあり、それを踏まえて、イメージスケールのあり方が提言されているわけではない。つまり、インテリアイメージやインテリアスタイルにおいては、依然として客観的なものが存在せず、それぞれが最も客観的であるとする指標を基に、イメージ作りをしているのが現状といえよう。

このように、インテリアスタイルやインテリアイメージの分類は多様であり、目的や立場によって大きく異なっているものの、常に分類基準というものが用いられてイメージをまとめる手助けをしているといえる。また、近年のインテリアスタイルは、そのような単一のイメージで割り切れないものを求めているようにも思われる。そこで、本学で学生がインテリアイメージごとのインテリアコーディネートを行う際に参考にしてきた「9イメージ分類調査法＝WAT9」による「キュート」(愛)「ナチュラル」(素)「エレガント」(優)「カジュアル」(楽)「和風」(趣)「シック」(品)「アジア」(華)「クラシック」(格)「モダン」(理)の9つの分類が的確な分類であるのか、そしてそれを用いることが学生にとってどのような効果をもたらすのか、そしてそれがどの程度一般に受け入れられるのかを調べ、インテリアイメージの効果と現状の認識の一端を把握することを目的としている。

2 インテリアイメージごとのインテリアコーディネート

2013年4月～9月に3D マイホームデザイナーPRO7を用いて、8名の学生が「9イメージ分類調査法

＝ WAT9」に基づく9つのイメージのコーディネートを行った。コーディネートの対象はリビングであるが、寝室の場合も含まれる。イメージごとに図に示すイメージの説明があったため、それに合わせて各自が工夫したものである。

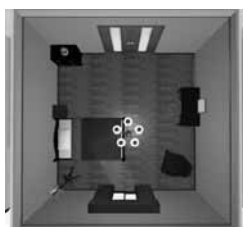
またそれらに対して、第三者がどのようなイメージとしてとらえるのかを調べるため、アンケート調査を行った。それぞれの鳥瞰図写真を一枚ずつ見せ、どのイメージと感じるか、そしてその決め手となったのはどの理由によるかをたずねたものである。調査日時は2013年10月であり、対象はインテリアを学ぶ女子学生22名、男子学生10名、シニア学生3名の計35名である。ただし、日本人学生は女子学生19名、男子学生4名であり、中国からの留学生が女子3名、男子6名含まれている。

2-1 クラシック



クラシックには「ずっしりした」という言葉に表されるようなダークトーンの色が示されており、学生も壁面や床に低明度、低彩度の配色をしたものが多い。本来は部屋の使い方も、格調の高さを感じさせるものであるべきだと考えられるが、コーディネートの際の優先順位としては、配色の方が優先されているように感じられた。学生がコー

2-1-1



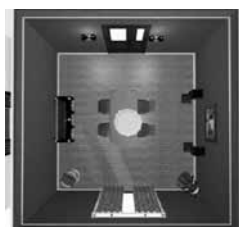
2-1-2



2-1-3



2-1-4



2-1-5



2-1-6



2-1-7



2-1-8



表1 クラシックイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	4	13	12	7	8	11	14	4
シック	10	7	12	15	17	13	10	7
エレガント	11	0	2	4	2	5	4	5
カジュアル	0	3	2	2	3	0	0	2
和風	0	0	0	0	0	0	2	3
キュート	1	0	0	0	0	0	0	0
モダン	2	7	6	2	4	4	4	4
アジアン	7	4	0	4	0	0	1	9
ナチュラル	0	1	0	1	1	1	0	1

表2 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	18	17	21	16	14	12	10	8
家具のデザイン	6	7	4	3	7	6	5	11
家具の種類	4	6	4	4	3	4	4	4
壁紙	1	2	1	2	1	3	2	3
床材	0	0	1	2	2	0	1	3
小物	1	0	2	0	6	2	7	2
カーテン	2	0	0	1	0	1	1	0
部屋の使い方	3	2	2	5	1	4	2	0
その他	0	0	0	0	0	0	1	1
複数回答	0	1	0	1	1	3	2	3

な選択理由となっているが、必ずしも同様の色彩が、同様のイメージと結びついているわけでもないようである。2-1-3は色彩をもとに選んだという人が最も多くなっているが、その選んだイメージはクラシックとシックに加え、モダンまであり、落ち着いたダークな配色であっても、それが直結するイメージが一つでないことを示している。

2-1-8は、和風イメージと答えた人が1割近く存在しているが、剣持勇氏のラウンジチェアに似た形のソファが置かれていることがその大きな要因となっているようである。2-1-8については、イメージの決め手が家具のデザインにあると答えた人の割合が最も高くなっており、部屋の中で目立つ家具のデザインは、やはりその部屋のイメージを決定づける大きな要素となっていることがわかる。素材感は、作成された部屋のパースなどで、それぞれのものを拡大して見せることにより、少しは感じさせることができるものの、このように上方からの鳥瞰図（パース図）によってのみ示された場合には、その区別がほとんどつかない状況である。従って通常の部屋イメージの選択以上に、配色に偏ったイメージ選択となることはやむを得ないものと思われる。

クラシックイメージのコーディネートは、作成した学生たちには、最もイメージしがたくコーディネートが難しかったもののようである。学生たちにとって身近なインテリアにも例が少なく、またファッションでも用いられない分類基準であることが理由ではないかと思われる。

ディネートしたクラシックイメージの部屋は2-1-1から2-1-8までの8種類である。これらについて、どのイメージととらえるのかをアンケートした結果は表1、そのイメージを選んだ理由は表2である。

最もクラシックという意見の多かったものは2-1-7であるが、それでも14名（約4割）の賛同にすぎない。また2-1-7には、グランドピアノという格式や高級感を感じさせるものが置かれており、そのイメージが大きく影響を与えていると考えられる。クラシックとシックのどちらが適切なのかについて意見が分かれた結果ではないだろうか。

配色が女性らしさを伴っている2-1-1は、エレガントと分類した人が多いが、全体的にはシックとクラシックが多い。落ちついた配色をクラシックととらえた人と、シックととらえた人があるようである。2-1-1は色彩的にアジアンとも近い。作成者本人も、アジアンとクラシックの違いが明確にはわからなかったらしい。

配色は、これらのイメージを決定する際の重要な

2-2 シック



「上質な」「洗練された」という言葉で表現されるシックは、学生にとってファッションのイメージと重なるところがあるようである。また、素材感やデザインの細部がわかりづらいというソフトの制約の中であって、色彩だけが作成した学生に訴えるものであったかも知れない。事例そのものがシックとモダンの区別の難しいものになっている

2-2-1



2-2-2



2-2-3



2-2-4



2-2-5



2-2-6



2-2-7



2-2-8



ことは、注意すべきことであろう。学生たちのコーディネートのポイントやはり配色であり、グレーを基調とした色にまとめられている。壁面だけでなく、床もグレーに統一されたものが目立つ。事例として紹介されたシックなインテリア例に純色の赤を使ったものがあつたためか、彩度の高いブルーを用いた2-2-5は、組み合わせた他の色彩に純色等を用いていないにもかかわらず、シックと感じた人が一人もおらず、モダンやカジュアルと感じた人が多いという結果となった。一面の壁だけを薄紫にした2-2-7も、紫の彩度がやや低いにもかかわらず、シックとモダンとカジュアルに意見が3分された。

作成していた学生たちからも、シックとモダンの区別のつきにくさについては指摘があつたが、どちらもグレーを主とした色調にまとめられており、家具の違いも、ソフトに保存されている家具

表3 シックインテリアに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	5	1	7	2	1	0	2	2
シック	13	6	10	6	0	9	8	10
エレガント	1	1	3	7	1	2	3	6
カジュアル	4	7	3	6	11	5	8	3
和風	0	0	0	0	0	0	0	0
キュート	0	0	0	0	1	0	0	0
モダン	8	6	8	10	14	12	8	9
アジアン	0	1	0	0	2	3	1	2
ナチュラル	4	13	4	4	5	4	5	3

表4 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	14	10	10	14	17	15	15	11
家具のデザイン	6	2	12	10	7	4	7	8
家具の種類	5	4	8	5	2	10	4	1
壁紙	4	3	1	2	1	2	2	0
床材	1	1	0	0	2	1	1	0
小物	2	7	1	2	2	0	0	4
カーテン	1	1	0	0	0	0	0	6
部屋の使い方	1	6	3	1	2	2	4	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
複数回答	1	1	0	1	2	1	2	2

事例にかなり忠実なコーディネートとも思われたが、第三者から見てシックと思ってもらえることは非常に少ない結果となった。

2-3 エレガント



「優しい」「淡い」がキーワードのエレガントイメージであるが、どちらかと言えば装飾的グループに属すると考えられるエレガントの特徴はあまり紹介されていない。このため、シックとの雰囲気の違いを読み取れない学生も多かった。また色だけに注目した学生は、モダンとの区別が難しかったようである。こちらでもエレガントの説明と事例

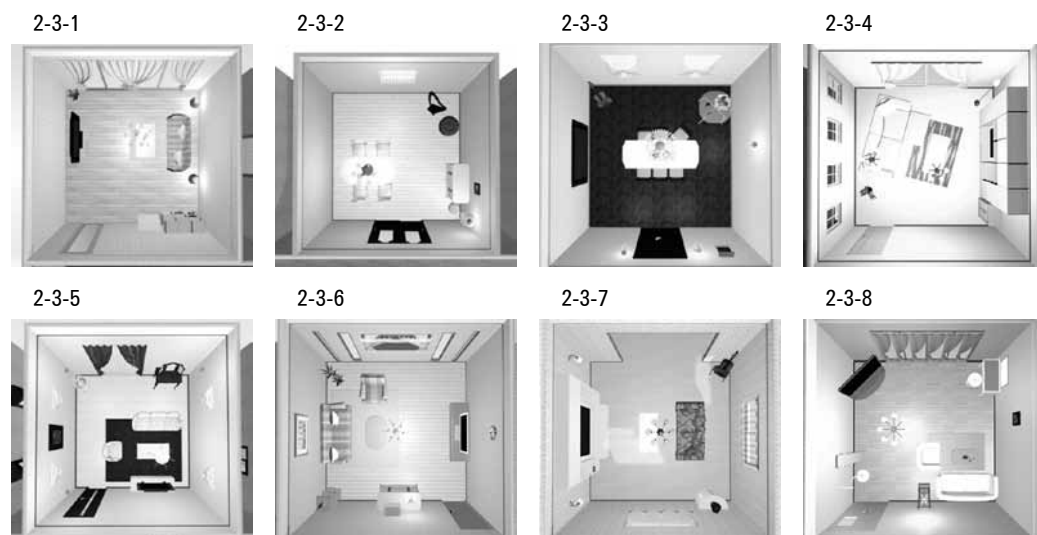


表5 エレガントインテリアに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	2	2	6	2	6	3	4	2
シック	8	9	11	11	8	5	7	12
エレガント	14	6	6	9	15	6	10	4
カジュアル	1	5	3	4	3	7	5	4
和風	0	0	1	0	0	0	0	0
キュート	0	0	0	0	0	0	1	0
モダン	4	5	5	3	1	7	4	5
アジア	4	2	1	2	2	1	2	2
ナチュラル	2	6	1	4	0	6	2	5

表6 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	6	5	4	21	10	8	9	12
家具のデザイン	5	9	9	3	10	10	5	5
家具の種類	8	6	5	3	5	6	4	3
壁紙	0	2	2	0	1	1	1	0
床材	0	5	6	0	1	2	0	2
小物	1	4	5	1	2	0	9	2
カーテン	13	0	0	2	3	4	3	5
部屋の使い方	1	3	4	5	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	1	0
複数回答	1	1	0	0	3	3	3	3

に忠実にコーディネートしていると思われるが、

シックイメージだと判断した人が、エレガントよりも多いという結果となった。また家具のデザイン等により、2-3-6は全く異なるカジュアルイメージを思い浮かべた人が最も多い。

エレガントが最も多くなったのは、2-3-1と2-3-5と2-3-7の3つだけであるが、その3つはいずれも、イメージの選択理由に特徴がみられる。2-3-1では、イメージ選択理由としてカーテンを挙げた人が最も多く、2-3-5では、配色と家具のデザインが同じ割合で多く、2-3-7では配色と小物が同じ割合で多くなっている。このように、配色だけではイメージ分類が難しくても、それを補うものが充実している場合には、作成者の意図と同じイメージが伝わるようである。

2-4 カジュアル

「ビビッドな」「ポップな」がキーワードとなるカジュアルスタイルは、比較的わかりやすく、学生にもなじみの深いものであると考えられる。

このため、学生たちも作成上は混乱なく楽しくコーディネートを進めていた。しかしながら、カ

言葉のイメージ	配色のイメージ	インテリア例
「ビビッドな」 「ポップな」 「明るい」 「楽しい」		
		

ジュアルイメージであると答えた人が最も多いコーディネートが皆無であるという結果となった。最も多かったのは、キュートである。

ビビッドな色を随所に用いているにも関わらず、そして配色がイメージ選択の理由として多いにも関わらず、キュートが最も多く、カジュアルとモダンの3つに意見が分かれる結果となった。純色の

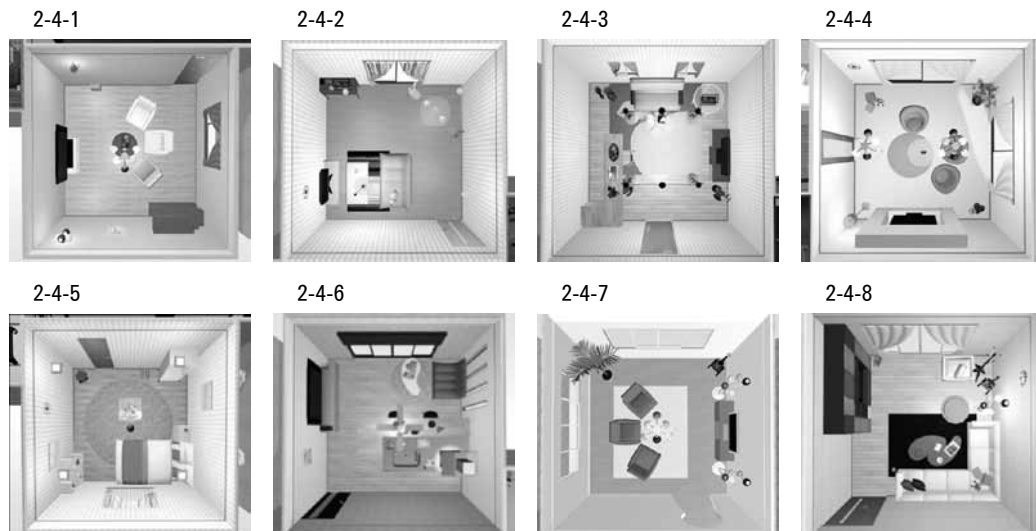


表7 カジュアルイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	1	1	0	0	0	1	0	0
シック	0	0	0	0	1	0	0	0
エレガント	0	3	1	1	1	1	0	0
カジュアル	11	11	6	8	7	10	4	9
和風	1	0	1	2	0	0	0	1
キュート	12	1	15	16	20	0	18	11
モダン	4	12	8	7	6	14	10	8
アジアン	1	1	1	1	0	3	1	3
ナチュラル	5	6	3	0	0	6	2	3

表8 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	18	8	11	16	21	3	24	11
家具のデザイン	5	7	4	6	7	7	0	9
家具の種類	4	3	0	4	1	13	4	6
壁紙	0	2	2	0	0	0	0	1
床材	0	5	2	1	3	6	0	0
小物	3	3	11	5	2	0	3	4
カーテン	0	3	0	0	0	0	0	0
部屋の使い方	4	3	4	0	0	5	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
複数回答	1	1	1	2	1	1	3	3

赤が用いられている2-4-5と2-4-7は、いずれも配色を理由にイメージを選択した人の割合が高いが、どちらもキュートが最も多くなっている。「赤」＝「キュート」というイメージを持つ人が多いことがうかがえる。

またポップさとしては控え目な2-4-2と2-4-6は、モダンであるとの意見が多かったが、小物や壁紙、カーテンなどの明るく楽しい雰囲気はあまり伝わらなかったようである。

イメージ選択理由は、ほとんど配色が最も高い理由となっているが、そのコーディネートによって、ばらつきのあるものと配色のみによって決定されたものに分かれている。

2-5 和風

言葉のイメージ	インテリア例	
「しっとりした」 「穏やかな」 「渋い」 「奥ゆかしい」		
配色のイメージ		
		

「渋い」「奥ゆかしい」をキーワードとする和風イメージであるが、和室の主要構成物である畳をそのまま用いたものではなく、本来は、和の要素を上手に用いた洋風のコーディネートを目的にしていた。

しかしながら、学生のコーディネートの中には、畳を用いたものが半数見られた。和室そのものといえる2-5-1や

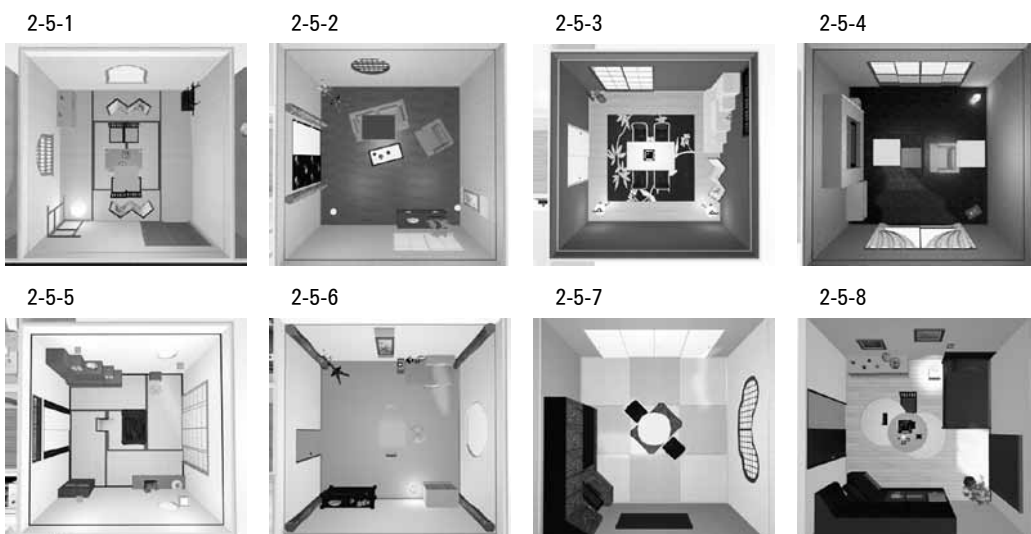


表9 和風イメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	1	5	2	4	0	1	2	5
シック	0	3	1	5	0	0	0	3
エレガント	0	2	1	1	0	1	0	0
カジュアル	0	1	0	5	0	0	0	2
和風	34	20	25	13	35	25	30	4
キュート	0	0	0	0	0	1	0	0
モダン	0	2	1	3	0	1	3	13
アジアン	0	2	4	2	0	0	0	3
ナチュラル	0	0	1	1	0	6	0	5

表10 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	0	6	1	13	0	3	2	13
家具のデザイン	4	8	9	5	4	6	5	6
家具の種類	13	7	8	7	4	6	2	8
壁紙	0	4	2	0	0	0	4	0
床材	11	2	4	0	20	2	11	1
小物	1	4	6	2	2	10	0	0
カーテン	0	1	0	2	0	0	1	0
部屋の使い方	5	2	2	5	3	4	6	4
その他	0	0	0	0	0	1	2	0
複数回答	1	1	3	0	2	3	2	3

2-5-5はほぼ全員が和風と答えているが、畳素材で

はあるものの、畳のように一畳一畳が分かれていない2-5-6ではやや比率が下がり、自然素材を用いた「ナチュラル」とイメージした人も2割弱存在する。

和の色調や和の要素を用いた、課題に忠実な2-5-8は、モダンイメージと答えた人が最も多く、ほかのイメージを考えた人も多い。2-5-4は洋室ではあるものの、障子を用いているにも関わらず、和風と答えた割合は3割程度にとどまっており、カーテンと障子のどちらに注目したかで判断がわかれたものと思われる。2-5-3は和風イメージと答えた人がそれなりに多いコーディネートであるが、この8種類の中で最も和風の色彩にこだわったコーディネートであった。しかしながら、配色を理由にイメージを選択したという人はきわめて少なく、1人しかいなかった。配色が決め手になるよりも、もっと特徴的な家具等があれば、それが主たるイメージ選択の理由となるようである。

2-6 キュート

「スウィート」「可愛い」がキーワードのキュートイメージでは、ピンクやオレンジの明度の高い色が特徴であり、学生の配色の基本もピンクであった。また象徴ともいえるピンクハートのラグマッ



トやピンクの花柄を用いたものも多く、イメージの統一性は高いように感じられた。

しかしながら、ローズピンクのような深い色合いを用いた大人の女性をイメージしたようなコーディネートは、キュートとは感じられず、エレガントと判断する人が半数程度存在し、支持率の1位であった。2-6-7はピンクの壁とピンクの家具を用いているが、

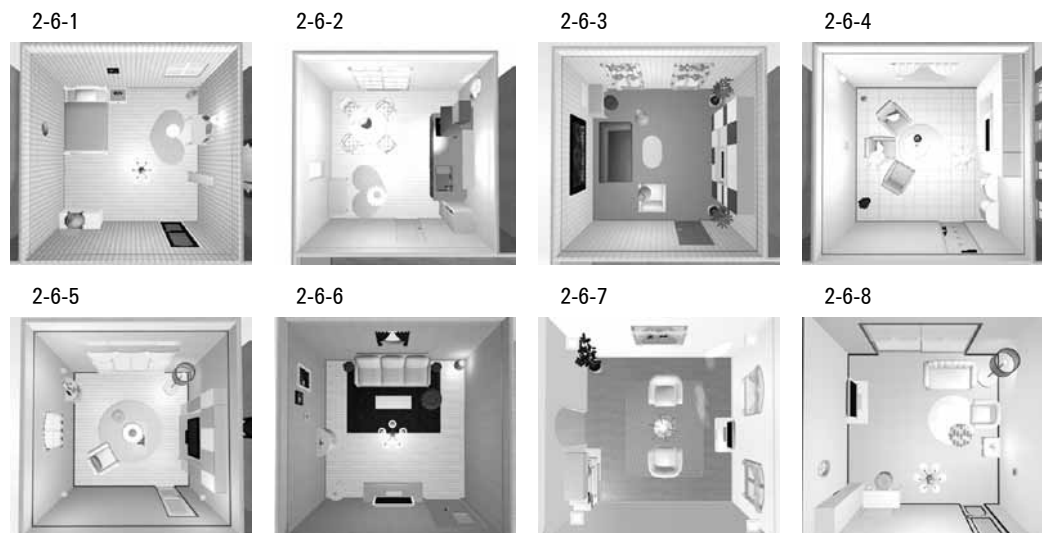


表11 キュートイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	0	1	1	2	0	3	1	1
シック	0	3	0	6	1	5	7	1
エレガント	0	4	2	5	1	17	6	3
カジュアル	1	3	4	1	0	1	3	1
和風	0	1	1	0	0	1	0	0
キュート	32	21	17	13	31	1	6	25
モダン	0	2	8	5	2	4	5	0
アジアン	2	0	1	1	0	0	1	2
ナチュラル	0	0	1	2	0	3	6	2

表12 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	7	7	19	14	18	11	15	10
家具のデザイン	16	10	5	5	3	9	5	8
家具の種類	1	5	0	7	3	3	4	3
壁紙	3	0	1	0	3	0	2	1
床材	2	1	0	4	1	3	1	1
小物	5	9	1	2	0	3	0	6
カーテン	0	1	6	1	0	4	2	1
部屋の使い方	0	1	0	1	3	2	3	2
その他	0	0	0	0	0	0	1	0
複数回答	1	0	3	1	4	0	2	3

どのイメージなのかに迷った人が多かったようである。

キュートイメージにおいても配色は非常に重要な要素である。ピンクを主とした配色だけで、かなりの割合でキュートやロマンチックのイメージを与えることができる。しかし、配色以外にも家具のデザインや小物、カーテン等は、イメージ決定の重要な要素であることがうかがえる。

部屋の使い方を考えてイメージを選択した人も2-6-5や2-6-7では1割程度存在し、またこの両者には複数の理由によってイメージを選択した人も1割存在する。

和風が、畳という絶対的なイメージの決め手を持っていたことを考えると、通常のイメージとしては、このキュートイメージが最も認識しやすく、また第三者にも同様のイメージを伝達しやすいものと考えられる。しかし、2-6-6や2-6-7のように、少しの違いで、まったく違うイメージにとらえられてしまう点は注意すべきところである。

2-7 モダン

言葉のイメージ	配色のイメージ	インテリア例
「フラットな」 「シャープな」 「カチッとした」 「整った」		

「シャープな」「整った」というキーワードで表現されるモダンイメージであるが、どちらかと言えば、ダンディでシンプルな要素を含んでいるようである。ガラス素材やメタリックな素材も大きな特徴となる。

モダンイメージは、シックイメージの時と同様、モダンとシックの区別が難しいようであり、どちらかといえば

2-7-1



2-7-2



2-7-3



2-7-4



2-7-5



2-7-6



2-7-7



2-7-8



表13モダンイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	5	10	2	7	2	8	8	4
シック	16	14	7	12	0	13	6	7
エレガント	3	4	6	2	3	1	3	3
カジュアル	2	0	6	1	9	0	1	2
和風	0	0	0	0	0	0	0	0
キュート	0	0	0	0	0	0	0	0
モダン	9	7	10	11	14	10	14	16
アジア	0	0	2	1	1	1	2	1
ナチュラル	0	0	2	1	6	0	1	2

ダークトーンの色調である2-7-1、2-7-2、2-7-4、2-7-6はシックという意見がモダンを上回る結果となった。

モダンについては、学生たちが参考にした9イメージ分類調査法による分類でダークトーンの色調が示されているだけでなく、最もよく知られている日本カラーデザイン研究所のイメージスケールにおいても、最も cool に近い hard な位置にモダングループが配置されており、色としては明度

表14 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	17	17	8	18	11	19	4	11
家具のデザイン	5	6	5	5	3	8	13	3
家具の種類	5	6	9	6	2	3	8	4
壁紙	3	0	2	0	0	0	1	2
床材	1	0	0	1	8	0	1	1
小物	1	2	5	2	2	0	2	3
カーテン	0	1	1	0	1	0	1	1
部屋の使い方	2	2	4	2	5	3	0	7
その他	0	0	0	0	0	0	1	0
複数回答	1	1	1	1	3	2	4	3

を思い浮かべる人が多かったのかもしれない。また、モノトーンの色調の2-7-2は、他と同様にイメージ選択の理由としては配色を理由とする人が最も多かったが、グランドピアノが置かれているためか、シックが最も多く、次いでクラシックというモダンとは正反対のイメージが2番目に多い結果となった。

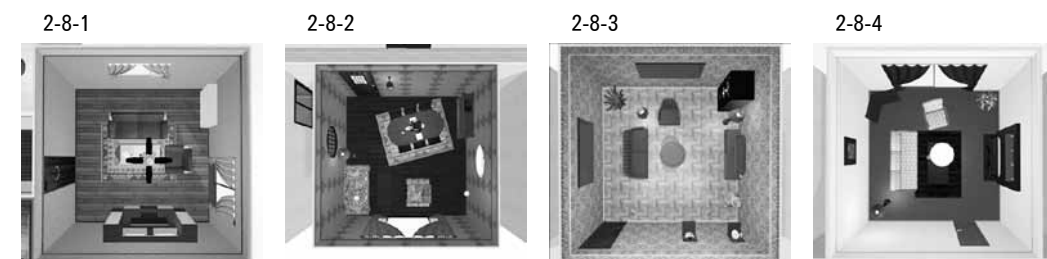
の低い色が目立つ。

全体的には、色調の落ち着いたモダンインテリアはシックとの区別がつきにくい反面、明度の高い色調のモダンインテリアも、さほどモダンを支持する人は多くはなく、多様なイメージが選択される結果となった。特に2-7-5は、モダンが一番多くなったものの、モダンの支持率は3割に満たず、また、シックを選択するものも皆無であり、ほかのスタイルとは全く異なる傾向を示した。特徴的な色を用いることで、カジュアルなどのイメージ

2-8 アジアン



「キラキラ」「装飾的な」をキーワードとするアジアンイメージであるが、色調は民族的で温かいものが中心となっている。色と装飾性の高いデザインに特徴があるグループである。このため、学生のコーディネートしたものも、壁面の色はかなり特徴的なものが多かった。しかし、アジアンイメージであるという意見が最も多かったものは、



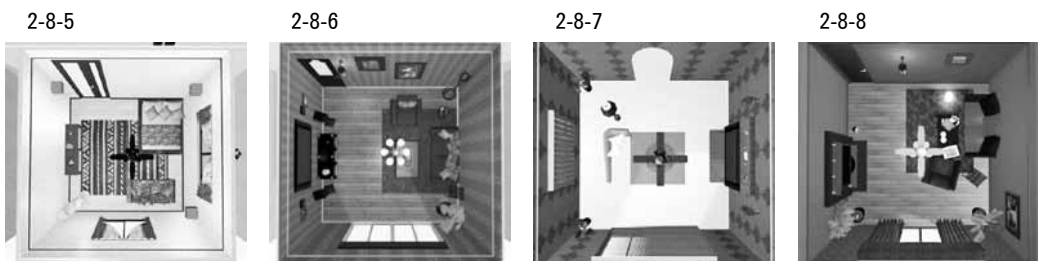


表15 アジアンイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	4	6	8	8	1	7	5	5
シック	3	3	3	8	0	1	8	6
エレガント	9	12	4	4	5	13	2	9
カジュアル	1	1	0	3	0	0	3	1
和風	1	0	0	0	1	0	0	0
キュート	3	1	0	0	1	1	1	0
モダン	1	0	2	2	2	1	7	4
アジアン	13	12	18	10	25	12	9	6
ナチュラル	0	0	0	0	0	0	0	2

表16 そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	7	3	10	11	6	15	11	16
家具のデザイン	14	13	5	9	8	4	4	2
家具の種類	6	3	2	6	3	5	1	2
壁紙	1	3	15	1	0	3	11	6
床材	2	4	2	2	10	0	0	0
小物	2	3	0	0	4	1	2	2
カーテン	0	0	0	3	1	0	5	2
部屋の使い方	2	5	0	0	2	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	1	0	0
複数回答	1	1	1	3	1	5	1	3

2-8-5であり、ナチュラル系の色調の壁面に、民族

調のラグをしいたものであった。2-8-5のイメージ選択理由としては、色彩に偏らず多様な理由を挙げており、床材（ラグマットが含まれているものと思われる）が第一位となっている。

装飾性が高いという共通点があるからか、アジアンイメージのほかに支持が高かったイメージとしては、エレガントやクラシックがあげられる。赤みが加わったエンジ系の色が目立つ2-8-1、2-8-2, 2-8-6、2-8-8では、いずれもエレガントの率が高くなっているが、コーディネートをした学生たちは、このエンジ系の色調をアジアンの特徴と考えていたといえる。

2-9 ナチュラル

「あっさりした」「自然のまま」がキーワードのナチュラルイメージは、色と素材に特徴がみられる。塗装のしていない木材の色に代表されるナチュラルカラーが主となり、植物の緑や茶色が加わったものと考えられる。学生たちもナチュラル系の色調にまとめたコーディネートを行っている。

床の色が濃い茶色の2-9-4がモダンイメージと答えた人が多かった以外は、ナチュラルイメージと答えた人がどのタイプにも最も多かったが、いずれも3割～4割にとどまっており、カジュアルやモダンなどのイメージに意見が分かれていた。

ナチュラルイメージにおいても、配色はイメージ決定の大きな要素であるが、その割合はそれほど高くはなく、家具のデザイン、家具の種類、床材、小物等、イメージ決定の要因は多様化している。また、小物等として、すべてのコーディネートに観葉植物が含まれていたが、それが目立つものについては、比較的ナチュラルと判断する人が増えているように思われた。特に特徴の少ないこ

言葉のイメージ	配色のイメージ	インテリア例
「サラッとした」 「あっさりした」 「自然のまま」 「柔らかない」		

とが、かえってナチュラルの特徴となっているとも言えない。

装飾的なものは避け、シンプルなコーディネートと、自然のままの雰囲気が味わえる工夫がナチュラルイメージを与えるものと言える。

2-9-1



2-9-2



2-9-3



2-9-4



2-9-5



2-9-6



2-9-7



2-9-8



表17 ナチュラルイメージに対する一致度 (N=35)

	1	2	3	4	5	6	7	8
クラシック	1	2	2	2	1	1	1	1
シック	4	0	2	5	0	2	4	0
エレガント	4	1	2	4	3	3	2	1
カジュアル	7	4	6	3	5	3	11	8
和風	2	1	0	1	3	1	1	3
キュート	1	0	0	0	1	0	0	0
モダン	6	11	7	9	5	10	3	3
アジア	2	1	2	5	4	3	1	5
ナチュラル	8	15	14	6	13	12	12	14

表18そのイメージを選んだ理由

	1	2	3	4	5	6	7	8
配色	7	6	8	13	8	10	15	9
家具のデザイン	10	3	10	9	5	1	5	6
家具の種類	4	6	6	3	6	3	3	5
壁紙	0	4	1	0	0	3	0	0
床材	7	0	0	4	3	6	1	3
小物	3	9	3	1	4	2	3	4
カーテン	0	2	0	2	3	4	2	1
部屋の使い方	3	2	6	2	3	5	5	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
複数回答	1	3	1	0	3	1	1	2

3 属性によるイメージの違い

今回のアンケート調査は、女子学生のほかに、男子学生や留学生、シニア学生などが含まれていた。サンプル数が総数でも少ないため、それぞれを比較検討するほどではなかったが、気づいた点について少し述べることにする。

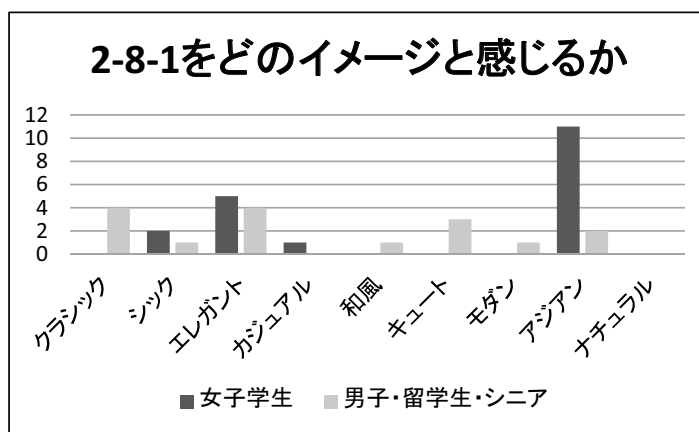
留学生など、文化の違いによって、イメージするものが異なっていることは当然のことと思われるが、この写真を見てイメージを選ぶ作業においては、留学生が特に違う判断をしているような傾向はみられなかった。特に、留学生であっても、日本語を十分に話し、日本での生活経験の長い留学生にとっては、さほどの違いがないのかも知れない。

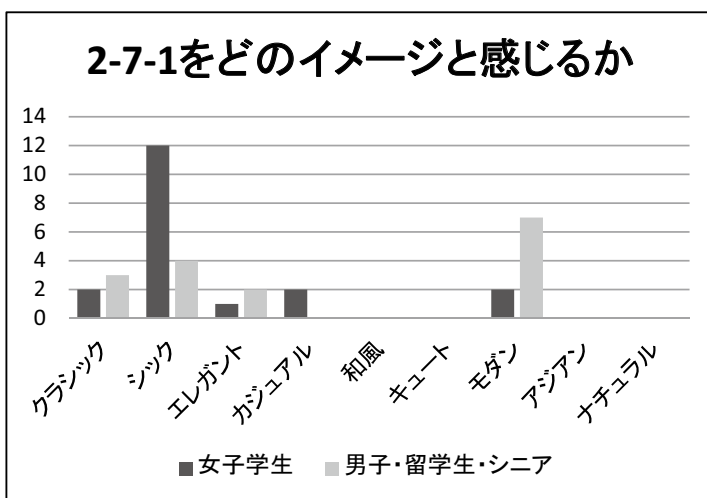
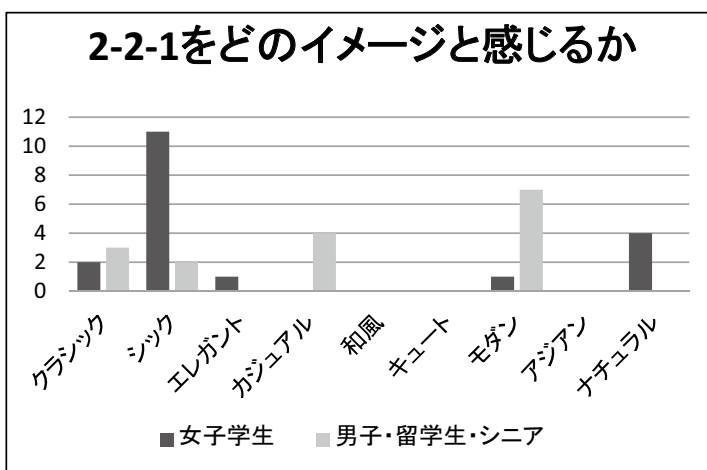
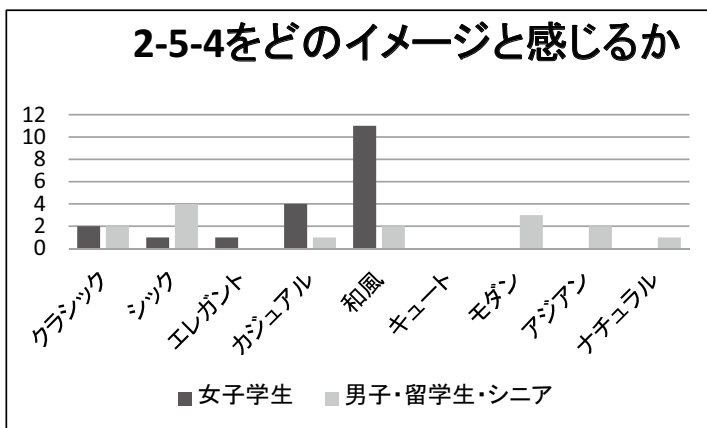
男子学生やシニア学生も少数であったため、その違いが明確にすることができなかっただけかもしれない。けれども72種類のコーディネートそれぞれのそれぞれにおいて、女子学生とその他の人たちの違いを比べてみて、特徴があったのは次の5例だけであった。

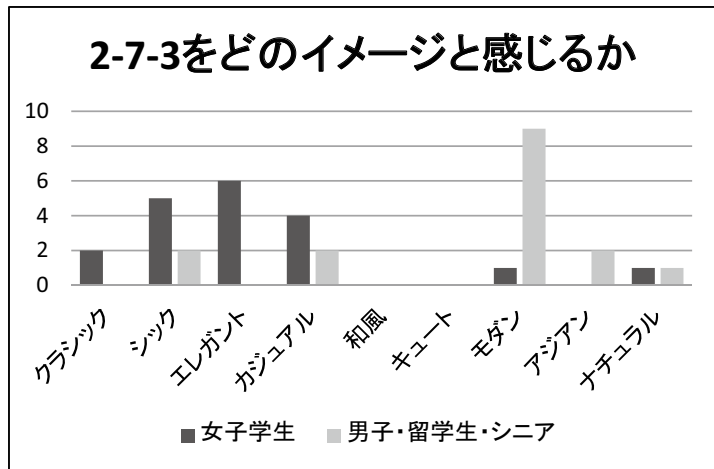
一つは、アジアンだと思って学生がコーディネートした2-8-1であるが、コーディネートをした学生だけでなく、女子学生の中には、アジアンだと思う人が一番多いものの、男子学生・留学生・シニア学生にはアジアンだと思う人は少なく、どのイメージなのか意見の分かれるところとなった。女子学生に共通してアジアンと受け入れられた理由が何かはわからない。

同様に、女子学生だけがコーディネートを行った女子学生と同様の感じ方をしているものが、2-5-4である。女子学生には和風が圧倒的に多いにもかかわらず、また留学生だけでなく、男子学生にもシニア学生にも和風をイメージした人が少ない結果となった。

そして、最も特徴的なことは、これらの違いの中で5例中3例までもが、シックとモダンのとらえ方の違いであったことである。シックもモダンもグレー系を主としたコーディネートになっているが、女子学生には共通してシックととらえる傾向があり、男子学生・留学生・シニア学生にはモダンととらえる傾向が見られた。シックやモダンのすべてのコーディネートに共通した特性ではなかったため、何か特徴的なものがある場合に、それに反応して両者の違いが顕在化するものと考えられる。







女子学生にみられるこの特性は、女子学生がシックやモダンという言葉の中に、どのようなイメージを持っているのかを明らかにしなければいけないが、ファッションで用いられるイメージを流用していたり、学生が利用する店舗などの先進的なインテリアのイメージから影響をうけていたりすることが大きな関連を持っているのかもしれない。

4 まとめ

インテリアのイメージは多様な用いられ方をしており、また「クラシック」「シック」「エレガント」等の言葉だけでは、そのイメージがほとんど一致しているとは言い難いことが分かった。しかしながら、まったくそれらのイメージが何も思い浮かべないかといえばそういうわけではなく、それぞれの分類基準に従ったイメージはやはり持っており、それらの言葉がある程度一般化されたものであることもまた推察された。イメージ写真を見てどのイメージかを分類した協力者たちはいい加減な分類をしているのではなく、それぞれのイメージの持つある部分に反応してイメージを選択していた。これらのイメージは、ファッションや音楽などにおいても使われるものであり、それぞれの立場におけるとらえ方をしていることが、共通認識を持つうえで支障となっているのではないだろうか。

また、クラシック、シック、エレガント、カジュアル、和風、キュート、モダン、アジアン、ナチュラルという9つのイメージは、配色イメージスケールのようなものにおいて均等なバランスを以て配色の区別をつけることが可能な分類ではなく、配色上は似たものもあり、インテリアイメージとしては配色だけで分類できるものではないと感じた。

一方、言葉だけでなく、その見本となる写真等が添付されている場合には、比較的共通認識が得られやすく、そのため、インテリアスタイルが多様化していても、それぞれのインテリアイメージの分類が違っていても、それほど混乱なくそのイメージを採用してきているのだと言える。

インテリアイメージのとらえ方には世代間の違いがあると考えられているが、今回の調査では特定の要素にのみ相違が顕著化していた。その中で、モダンとシックのとらえ方に大きな違いがあるように感じられ、特にそれが顕著化しやすいように思われた。

今回は、イメージごとのコーディネート数も各イメージについて8パターンと少なかったが、8パターン×9イメージの72のコーディネートについてイメージを考えたり、理由を選んだりすることは、ある意味限界であった。サンプル数についても、よりたくさんのサンプルを得ることが非常に重要であったと思われるが、同時に多数の意見を得ようとするこの調査方法に無理があった。また、PCソフトを利用したインテリアコーディネートにも家具の選択肢や表現上の制約が多く、イメージを正確に伝えるのには不向きであったことが否めない。

インテリアイメージを統一して分類するための基準を探ることは決して容易ではない。配色だけでなく、素材やデザインも時には配色以上に重要となることが分かった。現実には、これほど壁面の色に違いがあるインテリアに暮らす人は日本には少ない。日本のインテリアの多くは、家具や小物によってイメージを決定づけられていることも多いのである。また、イメージそのものも、一つのイメージにまとめられるインテリアコーディネートだけでなく、多様な要素を含んだインテリアコーディネートが多くなってきているようにも思われる。素材やデザインの違いによるイメージの現状についてももっと正確にとらえることが必要と思われる。

- 1) 日本カラーデザイン研究所 イメージスケールとは
http://www.ncd-ri.co.jp/about/image_system.html
- 2) A.F.T. 色彩検定テキストの3級のテキストにはインテリアのイメージは掲載されておらず、1級のテキストには、インテリアのイメージは色彩の方向性を検討するためにまず大切なことと書かれているが、そのイメージは、「明るく、さわやかで、シンプルな空間」や「暖かく、穏やかで、エレガントな部屋」というように2～3の形容詞を用いる必要があると記載されている。(1級テキスト P146)
- 3) A.F.T 色彩検定公式テキスト2級編 (社) 全国服飾教育者連合会 (A.F.T) 監修
(株) A.F.T 企画発行 2009 P92-93
- 4) 「インテリアコーディネートトレーニングブック」川村容治著 (株) ビー・エヌ・エヌ新社発行 2009
- 5) 静岡文化芸術大学 HP 上にて宮内教授が9イメージ分類についての紹介を行っている。
<http://www.suac.ac.jp/education/teacher/design/miyauchi.html>
- 6) インテリア産業協会 HP「インテリア大好き」に示されているだけでなく、インテリアコーディネーターテキストにも同様の記載がある。
<http://www.interior.or.jp/daisuki/oshiete/what/>
- 7) 住宅建築専門用語辞典
http://www.what-myhome.net/yougo_a/katego_interia.htm
- 8) 住まいづくり研究室
<http://www.ie-erabi.com/inte/style1.html>
- 9) Neostyle プランニングガイド
http://www.i-neostyle.com/guide/style_select/
- 10) 「インテリアイメージマップ政策のための調査研究 (1) 雨宮勇 梶山女学園大学研究論集第35号2004
- 11) 「インテリアイメージマップ政策のための調査研究 (2) 雨宮勇 梶山女学園大学研究論集第36号2005
- 12) 「インテリアイメージマップ政策のための調査研究 (2) 雨宮勇 梶山女学園大学研究論集第38号2007

- 13) 「インテリアイメージの世代間の相違－インテリアイメージマップによる調査研究（1）」雨宮勇 梶山女学園大学研究論集第39号 2008
- 14) 「インテリアイメージの世代間比較 高齢者のイメージを中心に」北本裕之・藤本尚久 日本生理人類学会誌 7巻2号 2002
- 「住宅インテリアの色彩イメージに関する研究」佐藤仁人 日本建築学会構造系論文集 第73巻第628号2008